

新市建設計画案がまとまる

将来像は「元氣な大交流都市」

第11・12回合併協議会で、新市建設計画（案）が小委員会から報告されました。この計画は、合併に際し新しい市の将来ビジョンを明確にする、マスタープランとしての役割を果たすものです。またこれを基礎として、さまざまな財政措置が講じられることとなっています。本号では、その概要についてご紹介しましょう。

●新市の将来像

新市は、木曾川の恵みを受けた豊かな自然にあふれ、名古屋から30キロ圏内という広域的な交通条件のなかで発展してきた地域です。学校や集会施設、道路網等の基礎的な社会資本の整備充実が概ね終了し、現在は、都市基盤整備の一層の充実に加え、生涯学習の推進や福祉医療サービスの充実など、成熟した都市への転換期に入りつつあります。その一方で、未来に向け、個性あるまちづくりの原動力となる産業面や基盤整備への投資も、積極的に進められてきています。

各務原地区では、航空宇宙・自動車など輸送機器関連産業を中心とした工業集積力に加え、

近年ではIT・VR技術・ロボット技術・バイオテクノロジーなどの先端産業が積極的に創出され、未来に向けて世界的規模の技術交流が期待されています。

また川島地区では、年間300万人以上が訪れる「河川環境楽園」が整備され、サービス産業の振興と雇用の拡大とともに、重要な交流拠点として期待されています。

さらに東海北陸自動車道と東海環状自動車道のジョイント、国道21号坂視バイパスの関連は、新しいスタイルの人の交流と産業の進化を予感させます。

過去から未来へと、この地域の発展のキーワードは「交流」なのです。新しいまちづくりには、歴史と現状と未来の展望を踏まえた「交流拠点の整備」が不可欠。人々が集まり、生活し、

交流する中で生まれる調和が、やがて「大交流都市」へと進化していきます。ここに新市誕生の意義があります。

そこで、まちづくりに関わる動向や課題を踏まえつつ、圏域の特性を活かし、新市がめざすべき将来像を次のように定めました。

「元氣な大交流都市」
「公園都市・共生都市」
「快速産業都市へ」

「元氣な大交流都市」とは、「豊かな自然と都市が調和し、すべての人々が生き生きと活動し、産業が成長を続け、交流がもたらす活気にあふれた元氣で

美しいまちづくり」をめざすもので、「公園都市・共生都市・快速産業都市」の3つの顔を持っていきます。

●基本哲学

将来像実現のため、新市建設の基本哲学に3つのバランスを盛り込みました。

「モノと心のバランス」

戦後、モノへのあくなき追求という「物質主義」に対し、モノがいくら増えても心は満たされないことへの疑問や反省から、お金やモノだけでなく心の豊かさを実感することへと変化してきました。とかく、ヒトとヒトが無機質な関係となりがちな時代だからこそ、心のふれあいが必要視されます。

「進歩と伝統のバランス」
地域固有の歴史、文化を守り、

そして学び、古きものと新しいものとの調和を図ります。一方、既存産業の振興とともに、産業の高度化や新産業の創設を図ることも重要です。

「個人と共同体とのバランス」
現代社会においては、行き過ぎた「個人主義」により伝統的な共同体が崩壊の危機に瀕しています。個人・家庭と地域社会の関係、あるいは市民と都市（共同体）との関係、個人とそれが属する集団とで、協働し、相互に協議し合う社会が望まれています。

この都市経営上の基本哲学である3つのバランスを堅持・再生することで、「元氣な大交流都市」の實現をめざしていきます。

●基本方針

新市の将来像「元氣な大交



子どもたちが夢のあるまちづくりを＝川島小学校校庭で

流都市」「公園都市・共生都市・快速産業都市へ」の方向性を明らかにするため、6つの基本方針を定めます。

（健康福祉）

すべての人々が豊かな生活を満喫できるまちづくり

▼ポイント

健康には、心の健康・頭の健

康・体の健康の3つの側面があり、それはまた、生きがいの源泉です。市民の健康を守り増進することは、まちづくりの最も基本的で重要な要件です。

▼めざす方向

誰もがどのような状況においても安心した生活が営めるよう、市民・行政・企業等が一体となって支え合い、人としての尊厳

が守られ、健康で安心感を持って暮らせる社会をめざします。

（教育文化）

生きがいと創造力を育み豊かな心と人の和を広げるまちづくり

▼ポイント

地域の明るい将来展望を開くために、個性ある人格を最大限に尊重し、誰もが豊かに成長できるような社会を形成していくことが求められています。

▼めざす方向

木曾川学など地域の歴史・文化・自然・産業など優れた特性を活かし、市民が誇りを持ち、市民としての一体感が持てるまちづくりを進めます。また、家庭・学校・地域社会での人づくりを進め、市民一人ひとりが主体的な役割を果たせるまちをめざします。

（快速安全）

快速で安全な生き生きしたまちづくり

▼ポイント

暮らしやすく魅力のある生き生きしたまちをつくるためには、地域資源や施設を共有し、拠点機能を分担・連携しながら、市

民の暮らしを支える都市基盤の充実が必要です。

さらに、火災や交通事故、地震などの自然災害から市民の生命と財産を守り、安心した暮らしを築いていく必要があります。

▼めざす方向

各地域の持つべき機能を考慮し、都市基盤の整備を進めるとともに、市民が豊かに安心して暮らせるよう快速な都市（まち）をめざします。

（環境共生）

自然と共生する環境にやさしいまちづくり

▼ポイント

地球温暖化などの環境問題については、例えば、CO₂吸収を促進する森林の緑化推進や里山などの地域環境保全など、地球環境にやさしいまちづくりを進める必要があります。

また、快速で衛生的な生活環境を整えるという面でも、ごみ問題への対応や下水道の普及も、重要な課題となっています。

▼めざす方向

木曾川など自然環境の保全を進めるとともに、ISOなどへの取り組みをはじめ、資源循環型社会や、次の世代も快速に過

ごせる環境と共生した美しいまちをめざします。

（産業活力）

活力に満ち創造力あふれるまちづくり

▼ポイント

産業はこれまで、航空機や自動車産業、繊維産業等を中心に発展してきました。今後は、この特色ある地域産業の活性化に加え、産業構造の変化や経営環境の変化に対応し、ITやVR技術、ロボット技術、バイオテクノロジーの先端技術分野などでの新産業の創出や、河川環境楽園などの木曾三川公園周辺をはじめとした交流産業の振興も重要となります。

▼めざす方向

地域内外との多様な交流の推進や、観光資源や交流拠点の魅力化を図るとともに、地域文化や他産業との連携を図り、地域特性や時代の要請にあった産業の充実・創出に努め、活力あるまちづくりを進めます。

（市民協働）

協働の精神に支えられたみんなが進める連携と交流のまちづくり